

国語 第4学年 春のうた

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

春の情景を表す詩の言葉から、想像した様子を音読で表す。学習の記録は、印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録である。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。
〔第3学年及び第4学年〕C 読むこと(1)エ	エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりとは結び付けて具体的に想像すること。

単元の目標

詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。〔〔知識及び技能〕(1)ク〕

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりとは結び付けて具体的に想像することができる。〔C(1)エ〕

春の情景を表す詩の言葉から、想像した様子を音読で表す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。〔〔知識及び技能〕(1)ク〕	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりとは結び付けて具体的に想像している。〔C(1)エ〕	①春の情景を表す詩の言葉から、想像した様子を音読で表す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全1時間（読1）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本時）	○教材と学習に使う言葉を確認め、問いについて今の考えを話す。詩を声に出し、響きや繰り返してから思い浮かべた様子を話す。言葉のまとまりや間を変えて音読し、聞き手が感じた様子と比べて読み方を選ぶ。選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確認めて聞く。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



本時の案

本時の目標：登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(C(1)エ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「どの響きや区切りにすると、春の様子が伝わりますか」 【めあて】春の情景を表す詩の言葉から、想像した様子を音読で表す。 〈予想される児童の反応〉 ・繰り返す言葉の響きが印象に残る。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「どの響きや区切りにすると、春の様子が伝わりますか」 詩を声に出し、響きや繰り返しから思い浮かべた様子を話す。言葉のまとまりや間を変えて音読し、聞き手が感じた様子と比べて読み方を選ぶ。 選んだ言葉と、そこから考えたこととの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・繰り返す言葉の響きが印象に残る。 ・間を置くところを変えると様子が違って聞こえる。	教師は教科書で語のまとまりを示し、響きと意味を確かめる。声を出しにくい児童は間や速さを印で選び、教師の音読で確かめる。 想定する難しさ：速さや声量だけを変え、言葉の意味や思い浮かべた様子と結び付けない。 評価では、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しているかを、印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・間を置くところを変えると様子が違って聞こえる。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「どの響きや区切りにすると、春の様子が伝わりますか」。中央は、印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまずきやすい所と手当て

速さや声量だけを変え、言葉の意味や思い浮かべた様子と結び付けない。この難しさには、教師は教科書で語のまとまりを示し、響きと意味を確かめる。声を出しにくい児童は間や速さを印で選び、教師の音読で確かめる。評価では、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しているかを、印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録 印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。
比べて確かめたこと 最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（4年）「4 年上巻」9行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/3db56761-ee29-4e40-81b8-d9480c60cd85/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。
（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。
（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

